

『中近東のさまざまな人物の版画選集』

図書館司書一課課長補佐 柳沼 恭子

Costumes des NATIONS DU LEVANTのタイトルとLe Hayの金の背文字が記された大型フォリオ判の本書は、パリで1714年に発行された図集、“Recueil de cent estampes représentant différentes nations du Levant tirées sur les tableaux peints d'après nature en 1707 et 1708 par les ordres de M. de Ferriol, Ambassadeur du Roi à la Porte et gravées en 1712 et 1713 par les soins de Mr. Le Hay” すなわち、「フランスの大使フリオル氏の依頼で1707年と1708年に描かれたオリジナル原画をもとにル・エのもとで1712年と1713年に作成された『中近東のさまざまな人物を描いた100枚の版画選集』」と、翌1715年にパリの印刷・出版業者のジャック・コロンバによって発行された解説集、“Explication des cent estampes qui représentent différentes nations du Levant avec de nouvelles estampes de cérémonies turques qui ont aussi leurs explications” 「解説を添えたトルコの儀式の版画を新たに追加した『中近東のさまざまな人物を描いた100枚の版画選集の解説』」の2巻を合冊したものと思われる。〈K/383.127/M〉

1699年コンスタンチノーブルに到着したフリオル氏は、トルコの人々や生活にたいそう興味を持ち、フランドル人の画家ジャン・バプティスト・ヴァンムーア（Jean Baptiste VanmourまたはVan MourまたはVan Moor）に版画のための原画制作を依頼したとされている。標題紙には原作者の表記はないが、すべての図の左下方にJとBを組み合わせたようにみえるサインがある。

ヴァンムーアは1671年、フランス北部のヴァランシエンヌで大工の息子として生まれた。育った境遇や故郷を離れた事情などは不明だが、17世紀

の終わりまでにはコンスタンチノーブルに移り住んでいたようである。この原画を描いたことが最初の成功となり、その作風は19世紀初期の英国で発行されたさまざまな服飾資料のイラストに大きな影響を与えたといわれている。彼は、1737年にコンスタンチノーブルで没した。

ほとんどの銅版画には版刻者のサインもあり、それによると、銅版画の半数以上はスコタン一族（G. et J.B. Scotin）によるものである。ほかにC. Du Bosc, B. Baron, C.N. Cochin, J. de Franssières, Haussard, P. Rochefort, P. Simmonneau fils 等、この時代のフランスの銅版画家の名前が確認できる。

描かれているのは、王、王妃のほか宮廷内の種々の仕事に従事している役人たちや、トルコに住む多様な身分、民族、職業の庶民である。図版は1ページ分の大きさで、おもな人物一体を中心とし、宮廷の人物を描いた図には主君に仕える近習や室内調度なども背景に描かれている。

図1は「スルタンの妃」で、その服装は、中に衿元が絞られたブリーツ状のギョムレク（gömlek）をのぞかせ、ブリーツの入った足首までのシャルワル（şalvar）をはいている。Vネックのチョッキ型エレク（yelek）の上にはぴったりのエンタリ（anteri）を羽織っている。柄のついたエンタリの袖口の切れ込んだカフスや前たてにぴったりと並んだボタン、たくさんの宝石に飾られたベルト、毛皮が裏打ちされたローブ状の上衣などが丁寧に描かれ、銅版画によるその緻密な表現は衣服の模様や細部のデザイン、素材感までを詳細に伝えている。

図集の最後の1枚と翌年に出版された解説集に

追加された2枚の図は見開きの大きさと、トルコの結婚式、ペラ寺のイスラム修道僧の儀式、トルコの葬儀の場面が描かれている。解説集には、26ページにわたって各図版の説明があり、修道僧の儀式の楽譜も1ページ付されている。

オスマン帝国は、13世紀末、オスマン（1259-1326）によって小アジアに建国された。次第にアジア・アフリカ・ヨーロッパにまたがる大国に発展し、1922年まで続いた。最盛期はスレイマン1世（在位1520-1566）の時代であり、17世紀中期より衰退が始まる。本書が刊行された18世紀初期は、洗練されて教養の高いスルタンだったというアフメト3世（在位1703-1730）の治世で、最盛期を100年以上過ぎてはいるが、描かれた宮廷内の人物や背景、庶民の職業・民族の多様さは、成熟した大国の様子を感じさせる。

本書の訳本は、1719年から1721年の間に、ドイツ語訳“Wahreste und neueste Abbildung des

Türkischen Hofes”がニュルンベルクのWeigelnから発行されていることが書誌“Bibliography of costume”〈383.103/H〉等で確認できる。

1757年から1773年にかけてロンドンのThomas Jefferysから発行された“A collection of the dresses of different nations, antient (ancient) and modern…”〈K/383.1/C/1-4〉には、本書の図版をもとに描かれた図が多数掲載されている。同書が『文化女子大学図書館所蔵欧文貴重書目録』〈R/029.7/B〉（39ページ）に紹介された際の掲載図版のもとなったのが図2「ナクソス島の若い女性」である。

1988年カイロのZeitouna 発行の“Oriental costumes”〈383.12/O〉には本書の8枚の複製図版が掲載されており、同書によれば、本書は発行後非常な人気を博し、ドイツ、スペイン、イタリアで模作品が作られたということである。



図1



図2